

日光諸社案内記

特67

308

慈悲心



014493-000-5

特67-308

日光諸社案内記

大室 茂吉 / 著

M10

ABB-0871



日光案内略記

神杉山宮の地格と云々事多し

満願寺此地内西大師杉并相輪

石鳥居黒田筑前守杉并

國元運ハ上ル高サ二丈二尺廻リ一丈二尺笠石長七間

二尺影石也○五重塔高サ二丈二尺間酒井若狭守杉

上サ二丈高彫物あり○下も一層あり石有御合の

造様のほり物○清水屋石のまゝ十二本金法

象頭深鼻雲模也唐洞石燈籠諸大名杉より上

○御神木榎木○之神庫ニ御宝蔵○御殿白木

造様のほり物○清水屋石のまゝ十二本金法

のなりのお浪花杉の彫りの所々水神石四尺

九尺より鍋島杉より上○二御華居○南をんつる

修善寺仙臺杉より上○田切經堂笑佛之像あり

俗ニ笑堂と云ふ○御中殿左に虎の獅子

彫物あり○琉球玉より上ニ十二口燭臺並蓮燈と

日光市 大沢 博野 宇都宮 石見 小田 吉野 中田 栗山

日光 中宮 杉戸 千位 東京 尾 柏尾

三々ん 三々りくひん

云朝鮮玉ヨリ上ル物鐘虫食鐘と云同書ヨリ上

廻り燈籠○阿蘭陀ヨリ上ル物燈籠つれも

銘有○左右日禱橋柱橋○旧本地堂十二間四面築築塗

はかりもの多し○所廻廊表の大彫りの松竹梅

孔雀鳳凰金鶏也○日下門左右隨身の破

風扇たるき四方の風神鳥が一本木の月夕

ものごとく麒麟乱獅子百花百多○龍○天人

○仙人○三笑○四友○六侍○九哲つきも極彩色の

彫りの七外づを志すは所又并古法眼元信の記

八方四方のくみといふ所裏方金獅子○神興原

二季山岳礼神興二社をきゆれり○所唐御門

惣唐木彫物多し所居根よま恙の虫つおきぢり

○御拜殿こよて参詣仰木社御拜殿の間と

仰石の間と唱ふは鋪石三三墨板石は電をう

と云此内結拵多し多くして舌端速くく百を

の鳥金銀の花堆朱の店柱を外恐多りれ禁ス○御

出流の 岩舟 天明 館林 川半 新 忍

日光ヨリ 今市 籠岩 大渡 舟生

王生 高内 矢板 沢原 大原 越前 芦の 志 白川 小川 大川 大川

大まき

玉垣四方山多水多草木の分跡は西面のは彫揚

○御神樂殿旧護之堂つらまも同銘おほおほ

東西は迴廊二百有余奥院合猫の法は坂下法

門日御供廊下竹さし熱赤くゆりも也○意出

の御多居は本社八方八棟造中宮祠と同神也大伽

藍間十八方奥行十四方高二十三方也左り坂下

常行堂阿比陀如来右の方法華堂子養育鬼

子母神安玉此ら坂さのほり慈眼大師御堂也

西面ハ大猷院標は屋舎合居アウシの仁王三ツ棟

は彫もの唐獅子左の方は宝藏唐祠石燈籠

ハ諸大名標より上は也は水屋石柱十二本は天井

の詠ハ狩野安信の筆也二天所門持国太廣

目天は裏方風神雷神かり石坂より左右

鐘樓鼓樓夜双門捷陀羅夜双○毘陀羅夜○鳥

牽勒夜双○阿跋摩夜双はちもの多御唐作

門御玉垣也いつまもおほりの御拝殿

のこりきんり

がえん

あし

ゆ

やむ標つらま

ら

下

鬼

也

たいおうん

せい

ひね

わ

ちき

とう

し

えん

あ

か

う

り

かう

ん

り

び

う

し

び

う

ま

あ

ま

あ

ま

ま

志田

矢吹

加志

日光

小栗川

大芦

石裂

日光

細尾

神内

足尾

ふ

大

前

高

板

安

中



